



化石クリーニングを体験



▲化石クリーニングを体験した子どもたち

8月16日、化石採集や地質調査などの地学研究を行っている北海道大学のサークル「シユマの会」のメンバーを講師として招いた「たのしい化石教室」が社会福祉会館で開催され、未就学児を含む9名が参加しました。白亜紀の北海道は海であったことからアンモナイト化石の宝庫であると説明したあと、本物のアンモナイト化石を石の中から取り出す作業を体験。保護者やサークルメンバーの助けも借りながら、金槌と鑿（たがね）を使って化石クリーニングにチャレンジしました。



天小生の標語がのぼり旗に



▲標語を考案した岸山さん（中央）

8月14日、天塩警察署で交通安全旗の貸与式が行われ、天塩小4年生の岸山美冬さんが山森署長にのぼり旗を手渡ししました。のぼり旗に書かれた標語「自転車も 標識守ろう 車の仲間」は、岸山さんが考案した作品で、町交通安全協会の主催で実施された「天塩町交通安全標語コンテスト」において大賞に選ばれたものです。岸山さんは自分の作品が採用されるとは思っていなかったそうで、少し照れくさそうな様子でした。この旗は、夏の交通安全運動の開始に合わせて町内各所に掲げられています。



天中生バレー全国大会出場



▲全国大会に出場する天塩中学校の生徒

天塩と遠別の中学生で構成される合同バレーボールチーム「遠別VBC」の男子チームメンバーの三橋星太さん、工藤瑛太さん、湯澤祥太さん、吉田征叶さん、コーチの三橋優樹さんが8月21日に吉田町長のもとを訪れ、8月5～7日にかけて江別市で行われた中体連での男子3位入賞、また9月26～27日に大阪で開催される「JVA第29回全国ヤングバレーボール大会」への出場報告を行いました。主将の三橋さんは「全国大会は初めての経験ですが、そこで戦える力は十分持っていると思うので、しっかりと結果を残せるように自分の力を出し切って勝ちを目指して頑張りたいです」と抱負を語りました。



勾玉づくり体験から考古学を学ぶ



▲出前講座で勾玉づくり体験を行った参加者

8月22日、北海道立埋蔵文化財センターの出前講座が町社会福祉会館にて開催され、小学生5名、大人9名が参加しました。同センターの倉橋直孝さんが講師として天塩町の遺跡について説明した後、参加者が道内で発掘された縄文土器や石鏃・石斧・ヒスイ製の実物を触り、生じた疑問などに解説をしました。続いて、参加者は千歳市キウス4遺跡出土ヒスイ製の勾玉をまねて、滑石を材料に勾玉製作に挑戦。講師から縄文時代において、ヒスイの石材は新潟県糸魚川エリアで産出されるものが使用され、このエリアで玉に形作られたものが全国の遺跡から出土することから、縄文時代の交流の一端がわかるかと説明を聴きました。



全道大会へ続々出場



▲(上) 羽幌フェニックスの天塩メンバー、(下) 天塩フェニックスの出場メンバー

8月31日、管内の小中学生が所属する野球チーム「羽幌フェニックス」の天塩メンバーが吉田町長のもとを訪れ、9月中に開催される2つの全道大会への出場報告を行いました。主将の穴戸皓哉さん(中学2年生)は「誰よりも声を出してチームを引っ張っていきま」と力強く決意を述べました。また9月3日にはバレーボール少年団「天塩フェニックス」の団員らが、9月12・13日に深川市で開催される「第24回北海道スポーツ少年団バレーボール交流大会」の出場報告に訪れ、主将の松本朝日さん(小学6年生)は「力を合わせて優勝を目指し頑張ります」と意気込みを述べました。



児童虐待防止を学ぶ



▲グループワークの様子

8月26日、「児童虐待防止対策研修会」がふれあいセンターで開催され、町内外の保健師・教員・保育士など45名が参加しました。旭川児童相談所子ども支援課主幹の下村朋史氏による講演では、虐待が疑われる子どもに出会った時の対応について、実際に保護に至った事例も交えながら、児童虐待は現在だけでなく将来に渡り悪影響を及ぼすため、子どもの安全を第一に考えて行動する必要があると説明。講演後、母親から暴力を受けたと訴える児童への対応を想定したグループワークが行われ、参加者それぞれの立場から真剣な意見が交わされました。



▲(上) ダンボールベッドを組み立てる生徒ら
(下) サバイバルゲームを楽しむ様子

天高生が自衛隊と「サバゲー」で交流



8月29日、天塩高校で「一日防炎学校」が開催され、全校生徒・消防職員・自衛隊員・近隣住民など約100名が参加しました。生徒らは体育館でテント型パーテーションやダンボールベッド、簡易ベッドなどの組立・設置を体験した後、震度5強の地震とそれに伴う最大8メートルの津波を想定した校舎屋上への避難訓練を実施。防炎情報配信システム「@InfoCanal」の配信を見て避難してきた近隣住民の誘導も行い、防炎意識を高めました。

午後からは、スポーツセンターで天塩町自衛隊協力会主催によるサバイバルゲーム交流会が開催されました。このイベントは、昨年9月に開かれた「天塩まちづくり・高大連携シンポジウム2025」のなかで提案されたアイデアを実現したものです。ゲームには赤外線センサー式の安全な光線銃を使用し、陸上自衛隊第26普通科連隊(留萌市)の隊員らがデモンストレーションを行った後、一般参加者や高校生らが5人1組となってゲームを体験。フィールドに設置されたバリケードを利用して身を隠しながらの緊張感あるバトルを、時間の許す限り楽しみました。

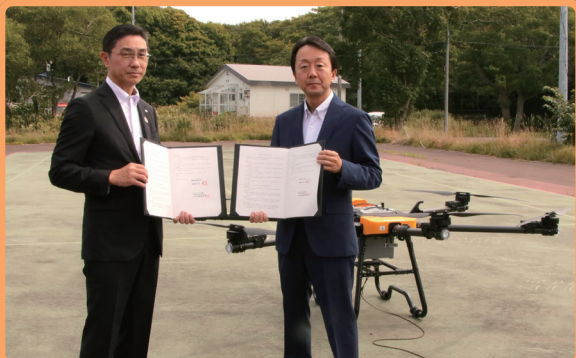
令和8年度 防災訓練



▲物資を持ち上げるドローン



▲自衛隊のオートバイに跨る子ども



▲協定書を持つ吉田町長と興北建設の代表取締役

9月5日、スポーツセンターで今年度の防災訓練が行われました。会場では天塩町と興北建設株式会社（留萌市）による「無人航空機の活用に関する協定書」の調印式が行われ、災害時や行方不明者の捜索などについてドローンを活用した協力連携を行う協定を締結しました。ドローンの飛行展示も行われ、50 kgほどの救援物資を吊り下げたドローンが浮かび上がると、見学に来た町民らから「おおつ」と驚きの声が上がりました。

「大雨災害 あなたは大丈夫？」と題した講話では、国内で発生した大雨災害を例に、ハザードマップで被害が想定されていない場所でも被害が発生する可能性があることや、自分だけは大丈夫だと思ひこむ「正常性バイアス」が逃げ遅れに繋がること、周りの判断に合わせようとする「同調性バイアス」を利用して隣近所に声を掛け合い一緒に避難すること、また家庭で日頃からできる備えなどが説明されました。

駐車場では自衛隊車両や消防車両、装備品の展示が行われ、乗車してみたり記念撮影をしたりする人々で賑わいました。講話の後には、自衛隊の炊き出し設備で調理された牛丼とチョコロス（ドーナツ）が振る舞われました。

三四郎・小痴楽落語会



▲（左）桂三四郎氏、（右上）柳亭小痴楽氏、（右下）桂源太氏

9月8日、町教育委員会主催による「桂三四郎・柳亭小痴楽落語会」が社会福祉会館で開催され、約70名が来場しました。3名の落語家が登壇し、桂源太氏はふぐ鍋を食べたいが毒にあたるのを恐れる2人のドタバタを描いた「ふぐ鍋」を、柳亭小痴楽氏は鏡を見たことがない夫婦が勘違いの果てに大喧嘩に発展してしまう「松山鏡」を、桂三四郎氏は酔っ払いの亭主が妻にわがままを言って振り回すも最後に本音を聞かれてしまう「替わり目」を演じ、会場は和やかな笑いに包まれました。

ミニ四駆サーキットが登場



▲コースを周回するミニ四駆を眺める子どもたち

9月6日、サニースペース（海岸通4）で恒例のコミュニティカフェ「おまつ」（テトデプラス）が開催されました。今回はこども縁日としてヨーヨー釣りや射的ゲームが設置され、ビーズリース作りのワークショップ、旭川市のたこやき店「音Code」の出店、天塩警察署によるパトカーの展示、そして昨年11月にもやってきた名寄市の「Tokoonan」が再びミニ四駆サーキットを設置。その場で購入したキットを組み立ててコースを走行させ、大人も子どもも一緒に楽しんでいました。